

曰欲為平次令藝國子迹考より之由世
 孝の世傳多ふし年々肥前肥後之國子
 川をたはさるの年々逢月十日ふりたる
 平次とて名をきく令一と名をれば實小
 可き事ありて形なりしが藝あのあし
 為平次といふ有國後護郡下横手田村
 といふ欲為平次と討と考しハ實平次云
 の村をたはさるる事ありて世傳今か下

小紀九甲年九月廿六日水弱之字

當上月九日東屋所二條下ニ或下女ニ遺取ありて
 小徳平次見下市東屋傳十部とて底あり迹去同
 人傳ニ此在也國國徳平人ニ屋所とあり平人お書

- 一 生はれ後小徳平今屋所
- 一 年齡二十歳中
- 一 中脊より少しふき方と白肉あり方
- 一 西脚長く色黒方
- 一 眼が細く白くあり方
- 一 鼻筋通う方

一 齒並枯しり方
 一 耳た所眉毛下り濃き方
 一 月代た所髪厚き方禁絶し
 一 舌舌静し分分り柔し方
 一 其節之を用本深定まや形も致すの起と忌緋
 本深常いふ一 糸箱服名を正帯
 ちくゆと名致すこと其末に白玉す一 糸箱町より一
 下出表及之節より一 糸箱下下出隠し玉服より
 お念しりてこの申すなり

申九月

一 **晴我** おまは冊ありし不加りなりた或古く見たりしは任注公

肥前佐賀之城主は 任渡之執

文化五年辰土月所用者牧建備守殿於内宅在る也
 任渡之

杉平紀前守
 辰代溜滑甲斐守

尚八月長湯に急事也其船渡某年湊内端に舟乘
 入由番所前姓返致し其方家来在石山舟所多し候
 油の如く才一辨事者人救ふ事あり候し相違
 不事候し候し調法もよく候し逼塞也 任付候

十月

右舟溜滑一統是如何に通は 任付候